

## 野菜需給協議会現地協議会の概要

野菜需給部

平成28年11月21日（月）に、野菜需給協議会会員（藤島廣二座長代理、消費者団体、流通・小売団体など）が、JA埼玉ひびきのに伺って、現地協議会を開催し、野菜の生産現場への理解をさらに深めるため、生産者関係者と意見交換会を行うとともに、集出荷場やほ場の視察などを行った。

### 1. JA埼玉ひびきの集出荷場（南部選果場）の視察

JA 埼玉ひびきの管内で生産されたきゅうり、なすの集出荷場である南部選果場を、同JAの担当課長等の説明を受けながら視察した。

本庄市・児玉郡は、きゅうり・なすの生産が盛んであり、国の野菜指定産地<sup>1</sup>となっている。平成27年度の年間出荷量は、きゅうり40万ケース（春きゅうり2～7月、秋きゅうり9～12月）、なす15万ケース（6～11月）となっている。今回、伺った際は、秋きゅうりの選果が行われていた。

近年の生産者の高齢化等による供給量等の低下に対応して、出荷調整労力を軽減するため、平成14年度に野菜産地強化特別対策事業等（国庫補助）を活用して選果機を導入した。選果機は3レーン（処理能力6,000ケース/日）からなり、きゅうり及びなすの選果が行われている。選果機に設置されたカメラ（毎秒4本）で、きゅうり等の曲がりや長さによってA～D品まで選別が行われている。A品をはじめとする良品は、JA全農さいたまを經由して京浜地域の市場へ出荷されている。この選果機の導入によって、出荷調整労力が軽減され、余剰労力を活用して、品質の向上や新規作物の導入を行っている。



JA 埼玉ひびきの選果場



選果機の説明を聞く会員

<sup>1</sup> 「野菜指定産地」は、野菜生産出荷安定法に基づき、指定野菜の出荷が行われる一定の生産地域について、当該指定野菜の出荷の安定を図るため集団産地として形成することが必要と認められ指定された区域。

野菜指定産地に指定されると、農畜産業振興機構が実施している指定野菜価格安定対策事業及び契約指定野菜安定供給事業の対象産地となり事業に参加することができる。

## 2. 農産物直売所「あおぞら館」の視察

JA 埼玉ひびきの管内にある5つの農産物直売所の1つである本庄市の「あおぞら館」を視察した。

あおぞら館は、売場面積 798 m<sup>2</sup>。利根川沿線の肥沃な土壌で育った、新鮮なきゅうり、ねぎ、大和芋などが店頭に並び、また、こうした生鮮野菜のほか、加工食品であるおこめ麺や、オリジナルドレッシングなども、おすすめ品として並んでいる。



あおぞら館の外観



店舗内の様子

## 3. 意見交換会

JA 全農さいたま、JA 埼玉ひびきのの担当部課長から、意見交換会において、取り組み状況などについての説明があった。その内容は以下のとおり。

### (1) JA全農さいたま

埼玉県は、全国の1%程度と小さいが、人口は多く、直近で726万人となっており全国で5番目。このように大消費地でありながら、農業の産出額(H25年度)は2012億円、そのうち野菜は1025億円と高く、全国の野菜の農業産出額の4.3%を占めている。これは単価の高い野菜を多く生産しているからである。埼玉県の西側と東側で、青果物の生産が盛んで、ねぎ、ほうれんそう、ブロッコリーなど、出荷量で全国上位を占める野菜が多く、ここ5年は比較的安定した生産が行われている。

JA 全農さいたまでは、生産の安定・販売力の強化を図りつつ、生産・流通コストの低減や青果物の鮮度保持に取り組むとともに、消費者に調理方法の紹介などを通じて農産物をアピールしている。また、加工・業務用野菜については契約栽培を推進している。

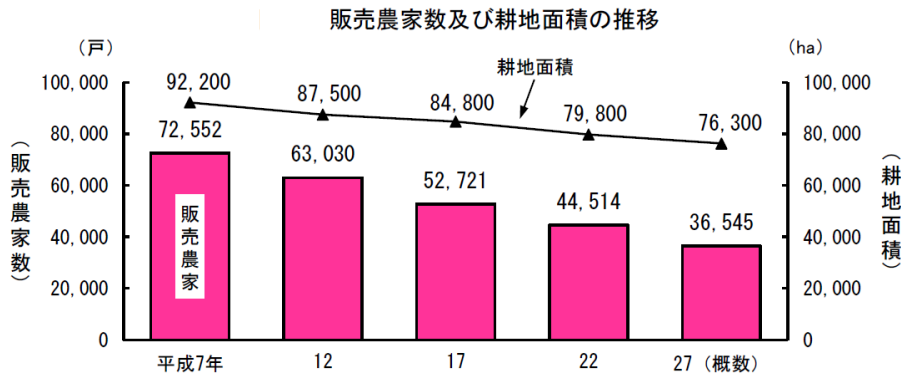
一方、耕地面積や農家数は、年々減少しており、27年度の販売農家数は7年前の半分となっている。

埼玉県は、消費地でもあり、生産地でもあることを売りにしており、11月19日、20日に開催したイベント「2016 彩の国食と農林業ドリームフェスタ」では、“暮らしのとなりが産地”“近いがうまい埼玉産”をキャッチフレーズに販売促進活動に取り組み、好評を博した。

埼玉県の農業の位置  
主要農業指標

		年次	単位	全国	関東	埼玉県	シェア	
							全国シェア	関東シェア
総土地面積		平成26年	千ha	37,797	5,823	380	1.0	6.5
耕地面積	総数	平成27年	〃	4,496	798	76	1.7	9.6
	田	〃	〃	2,446	429	42	1.7	9.9
	普通畑	〃	〃	1,152	280	31	2.7	11.0
	樹園地	〃	〃	291	79	3	1.1	4.0
	牧草地	〃	〃	607	11	0	0.0	0.6
耕地率		〃	%	12.1	13.7	20.1	-	-
水田率		〃	〃	54.4	53.7	55.4	-	-
1経営体当たりの経営耕地面積		〃	ha	2.53	1.64	1.45	-	-
総世帯数(総計)		平成27年	千戸	56,412	22,342	3,124	5.5	14.0
農家数	総農家数	〃	〃	2,153	554	64	3.0	11.6
	販売農家	〃	〃	293	74	7	2.5	10.0
	主業農家	〃	〃	257	63	7	2.8	11.4
	副業的農家	〃	〃	777	184	22	2.8	11.9
	自給的農家	〃	〃	826	232	28	3.3	11.9
総人口(総計)		平成27年	千人	128,226	49,762	7,305	5.7	14.7
販売農家	農業就業人口	〃	〃	2,090	529	58	2.8	11.0
	基幹的農業従事者数	〃	〃	1,768	465	51	2.9	10.9
農業産出額	総額	平成26年	億円	84,279	21,524	1,902	2.3	8.8
	米	〃	〃	14,370	2,939	350	2.4	11.9
	麦類	〃	〃	389	58	10	2.6	17.2
	野菜	〃	〃	22,421	8,153	967	4.3	11.9
	果実	〃	〃	7,628	1,980	65	0.9	3.3
	花き	〃	〃	3,437	1,057	165	4.8	15.6
	工芸農作物	〃	〃	1,889	372	14	0.7	3.8
	畜産	〃	〃	29,912	5,818	289	1.0	5.0

資料：総土地面積は、国土地理院『全国都道府県市町村別面積集』による。



資料：農林水産省統計部『農林業センサス』『耕地及び作付面積統計』

(2) JA埼玉ひびきの

JA埼玉ひびきのは、平成9年4月に、JA埼玉本庄・JA上里町・JA埼玉美里・JA児玉町・JA神川・JA神泉村の6JAが合併して誕生。管内は、埼玉県西北部にあり都心から約80km圏に位置する。本庄市・上里町・美里町・神川町の1市3町で、人口約14万人、面積は約200平方kmとなっている。

耕地面積は約5,189haで、管内全体面積の約26%を占め、畑地帯および水田地帯が広がっている。一方、南西部は山間地域となっており、野菜や米麦のほか、酪畜産、果樹、花卉など地域の特性を活かした農業が行われている。

高齢化、新規参入者の減少・作付面積の減少が進んでいる中、機械化を図りつつ規模拡大を進めるとともに、低コスト化技術の導入や契約栽培の推進を図っている。また、農業経営者を増やすために新規参入者向けのいろは塾を開講している。

■ 農業産出額			■ 農業経営体数
合計	877 千万円	-4.60%	788 経営体
耕種計	745 千万円	-4.70%	
米	58 千万円	-1.40%	379 経営体
麦類	20 千万円	-5.50%	64 経営体
雑穀	0 千万円		8 経営体
豆類	1 千万円	-2.30%	16 経営体
いも類	6 千万円	-2.50%	42 経営体
野菜	595 千万円	-7.30%	562 経営体
果実	5 千万円	-0.70%	18 経営体
花き	60 千万円	-3.30%	32 経営体
工芸農作物	1 千万円	-0.60%	1 経営体
種苗・苗木類・その他	0 千万円		
畜産計	133 千万円	-4.10%	
肉用牛	24 千万円	-7.70%	23 経営体
乳用牛	73 千万円	-8.10%	16 経営体
うち生乳	65 千万円	-7.90%	
豚	29 千万円	-3.50%	4 経営体
鶏	X		
うち鶏卵	X		2 経営体
うちブロイラー	-		1 経営体
その他畜産物	X		
加工農産物	-		

■ 野菜

	作付面積	収穫量
だいこん	13 ha	491 t
にんじん	2 ha	58 t
ばれいしょ	25 ha	468 t
さといも	11 ha	143 t
はくさい	40 ha	2,240 t
キャベツ	23 ha	1,013 t
ほうれんそう	90 ha	1,420 t
レタス	58 ha	1,512 t
ねぎ	194 ha	5,752 t
たまねぎ	19 ha	1,050 t
きゅうり	99 ha	8,010 t
なす	38 ha	1,723 t
トマト	15 ha	1,173 t
ピーマン	0 ha	5 t



意見交換会の様子



説明を聞く会員

#### 4. ほ場視察

本庄市内のきゅうり、レタスのほ場について、生産者の説明を受けながら視察した。

##### (1) きゅうり生産者の説明

本庄市は、昔からきゅうりの生産が盛んな地域であり、消費地に近いメリットを活かして、首都圏でのきゅうりの流通量は多い。

きゅうりは、生育適温が 18～25℃程度と比較的高温を好むことから、もともとは夏野菜として出回っていたが、施設栽培の普及により、周年出荷が可能となった。10月～11月に出荷するきゅうりは、8月～9月頃に定植作業を行っている。

きゅうりは、出荷時期によって、冬春きゅうり（促成および半促成作型）と夏秋きゅうり（露地、雨よけ、抑制作型）の2つに分類される。冬春きゅうりは、施設での加温栽培のため、関東～九州にかけて多くの産地で栽培され、夏秋きゅうりは、東北から北海道を中心とした冷涼な地域で栽培される。

きゅうりは受粉しなくても雌花は全て実になる。開花から、晩秋だと20日程度、最盛期だと1週間程度で収穫サイズになる。

##### (2) レタス生産者の説明

レタスは、27～30 cm間隔で植えている。一反に8000株植えるが、出荷できるのは7000株弱。やや乾燥状態が生育には向いている。逆に湿度が高いと菌核病になって腐ってしまう。

良いレタスの見分け方は、品種によもよるが、お尻の部分を指で押してへこむのが甘みのあるレタス。カチカチだと苦みがある傾向。



きゅうりのハウス前で説明を聞く会員



成育中のきゅうり



レタスほ場



ほ場で生産者の説明を聞く会員